

## 集計結果

1 本年度の重点教育目標

函館・南茅部地域を愛し、自ら課題に挑み、未来を拓く生徒

2 本年度の取組の重点

①「安心」を育む学校風土の醸成 ②「子どもが主役の学び」の促進 ③現状を拓く「協働」の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①「安心」を育む学校風土の醸成	支持的風土が醸成された学級づくりを推進し、いじめの未然防止および早期発見・対処のための校内体制整備および取組の推進を図ることができたか。	a	協働的な活動による人間関係づくりや教育相談の効果的な活用等により、いじめ未然防止等の充実にさらに図っていききたい。	A	A	・不登校があると聞かすが、実際にいるのか？ ・地域と保護者の連携を深めてほしい
	危機管理の意識を高め、自らの安全に留意するとともに、体力の向上や健康的な生活習慣の確立に向けて取り組む生徒を育成することができたか。	b	危機管理や安全に対する意識向上などは概ね達成できた。生活習慣の確立に向け、ICTを活用するとともに保護者との連携を深めたい。	A <sup>-</sup>	A <sup>-</sup>	・今年度はクマ被害や津波警報など、足元を見つめ直すべきことがありましたね。 ・携帯電話の適切な指導など家庭との連携を密にしてトラブルから守る。
②「子どもが主役の学び」の促進	基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指し、すべての生徒が学ぶ楽しさを実感し活躍できる授業づくりができたか。また、校内研修の深化による授業改善ができたか。	b	さらに ICT を効果的に活用し、生徒に達成感を実感させる授業改善を組織的に進めて、生徒の学力向上につながる授業を目指したい。	A <sup>-</sup>	A <sup>-</sup>	・生徒の学力向上を目指してほしい。
	函館・南茅部地域に愛着と誇りにつながる学習や、自らの将来について考える学習を推進し、地域の未来を担う生徒を育成することができたか。	a	1年生の縄文学習、2年生の職業体験、3年生の修学旅行での昆布親善大使の活動などとともに、縦割りの地域探求など活動をさらに充実させたい。	A	A <sup>-</sup>	・地域の特性を生かした活動の充実にこれからも引き続きご指導願いたい。 ・小学校との連携事業を充実させ、継続的な指導を進めてほしい。
③現状を拓く「協働」の推進	「協働」を推進し、現状改善を持続しながら、重点を意識して校務の効率化を図ることができたか。	a	振り返りによる現状改善をさらに日常化するとともに、職場のコミュニケーションをさらに深め、「協働」を推進したい。	A	A	
	学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a	校務のDX化は概ね進んでいるので、校務の分担の均等化をさらに進め、生徒と向き合う時間の確保に努めたい。	A <sup>-</sup>	A	
	保護者の願いをふまえ、教育活動を工夫するとともに、積極的な情報発信をすることができたか。	b	緊急時の即時連絡やニーズに合った情報発信に努め、保護者との連携・協働を図っていききたい。	A <sup>-</sup>	A <sup>-</sup>	・地域・保護者との連携・協働を図っていただきたい。 ・HPも充実しているので、更に関係者以外への発信も充実するとよいのでは。
	コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	b	学校運営協議会での意見も参考にしながら、参観日の公開なども含め、さらに地域に開かれた学校づくりを推進したい。	A <sup>-</sup>	A	・参観日の誘いがあつたら、ぜひ参加をしたいと思います。 ・地域に開かれた学校づくりが出来ていたと思う。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。